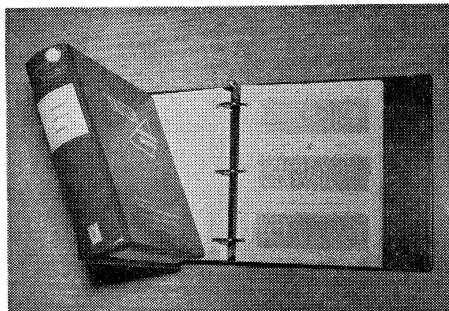


なお、本書は年度別になっているため学位を授与された年度が判明しない時、または特定の人の論文を探すときは京都大学の分は学部別に氏名順のカードがあるのでそれを利用するとよい。

本学の博士論文は本館に所蔵されて、閲覧は出来るが貴重書扱いになっている。

サトラー標準赤外スペクトル集について

Sadtler Standard Spectra, すなわちプリズム分光器による赤外域吸収スペクトル35,000格子分光器によるもの13,000のカードがこのたび図書館に設置されることになった。国立大学では本学がその嚆矢である由である。1968年までの発行分が、各種索引とともに特別戸だに収納され、本学一般の利用に供せられる。専門外のかたに、どのような効用のあるものか説明したいと思う。



吸収スペクトルというのは、その物質がいろいろな波長の光をどういう割合に吸収するかをグラフで示したものである。赤外域、なかでも波長2~15ミクロンにおける吸収スペクトルは、あたかもくしの歯のような複雑な模様を呈している。そしてその模様は物質に個有であって、その物質の“指紋”とみなしてさしつかえない。警察の元締めは膨大な指紋のコレクションをもっていて、事件のたびに犯人の割り出しに役立っているそうであるが、サトラー社の本カード集は全く同じような役割を、物質研究の上で果たしてくれるわけである。

5万に近いスペクトル図をいちいち照合しては時間がかかる。索引はそのため必須不可欠のもので、これをいかにもく使いこなすかが問題である。近く講習会を開いて利用者の便を計ろうという企てもあるよしである。

近年における革命的な学問の進歩は、科学を細分化するとともに、従来無縁であった学問領域が、いつの間にか非常に密接なかかわりあいをもつ状態をもたらしている。サトラー赤外スペクトルの全学的利用をひとつの機縁として、各部局でバラバラに行なわれていた図書室の活動が物によっては本部図書館中心に集約され、むだがなくして便利なものに変革されるべきではないか。少なくともその方向への第一歩をふみ出す時期のきていることを痛感する。

(工学部工業化学教授 野崎 一)

教 官 文 庫

- 「簿記の一般理論」高寺貞男(経済学部助教授)著 ミネルヴァ書房 昭42.
- 「非線形問題」占部実(数理解析研究所教授)著 共立出版 昭43.
- 「ローマ裁判制度研究」柴田光蔵(法学部助教授)著 世界思想社 昭43.
- 「明治維新の分析視点」上山春平(人文科学研究所教授)著 講談社 昭43.
- 「弁証法の系譜」上山春平(人文科学研究所教授)著 未来社 昭43.
- 「日本経済史読本」堀江保蔵(名誉教授・経)著 東洋経済新報社 昭43.
- 「平和の思想」湯川秀樹(基礎物理学研究所教授)編 雄渾社 昭43.
- 「国際法講義 上」田畑茂二郎(法学部教授)著 有信堂 昭43.
- 「家族法判例集成 追録Ⅲ」太田武男(人文科学研究所助教授)編 昭43.
- 「新修 京都叢書 第5」野間光辰(文学部教授)編 臨川書店 昭43.